

「阿蘇の草原キッズになろう！①秋編」事業報告書

企画指導専門職 山下 正晃

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 阿蘇市内の子どもたちに、阿蘇の草原環境の現状を学ばせるとともに、草原維持活動の直接体験を通して、草原環境保全への意識を高めさせる。
- (2) 期 日 平成30年10月5日(金)～6日(土) 【1泊2日】
※台風接近のため10月5日(金)のみ実施
- (3) 活動場所 阿蘇青少年交流の家・町古閑牧野・小堀牧野
- (4) 参加者 一の宮小学校4年生 87名 引率教師8名 計95名
- (5) 講 師 町古閑牧野組合 組合長 市原 啓吉 氏
小堀牧野組合 組合長 田島 今朝信 氏
- 協 力 環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 藤田 幸代 氏
ボランティア 池田 一之輔 氏 大原 敏久 氏
平 嘉隆 氏 飯尾 雅嘉 氏
- (6) 担当職員 山下 正晃 (企画指導専門職) 安部 信吾 (事業推進室長)
尾家 義隆 (企画指導専門職) 萱野 太一 (事業推進係員)
志賀 泰成 (事業支援室主任) 宇戸口 健 (事業支援室係員)
- (7) 内 容
【1日目】 ・草原学習(草泊りの作り方、阿蘇の草原について)
・草泊り作り ・あか牛とのふれ合い(えさやり体験) ・草泊り作りの取材

2 成果と課題

- (1) 成 果
- 「阿蘇の草原のでき方について知れてよかった。」「草泊り作りは大変だったけれど、みんなで協力してできて楽しかった。」「怖かったけれど、牛にエサをあげたら、あか牛や黒牛のベロがざらざらしているのがわかった。」「草泊りは竹で骨組みを作って、わらを重ねて作られたことが分かった。」等の参加者の感想から、体験を中心とした学習プログラムにしたことで、日常生活ではできない体験を通して、充実した活動ができた様子がうかがえた。また「阿蘇の自然が大切であるということがわかった。これからも阿蘇の草原がきれいだと他の人に言われるようにしていきたい。」「昔の人の農業の大変さがわかった。昔の人の工夫について調べたい。」等、今回の体験学習が、参加者の今後の草原学習につながるものとなったようだった。
 - 各関係団体と連携し、講師としてそれぞれの分野から詳しくわかりやすく説明をしていただき、充実した草原学習をすることができた。
 - 台風接近のため日帰りの日程に変更し事業を行った。スタッフ・ボランティア・学校職員間で臨機応変に対応し、今回の事業の中心に位置づけていた草泊り作り、あか牛とのふれ合いの体験活動プログラムを実施することができた。
- (2) 課 題
- 草泊り作りでは、荒天のため予定していた日程を大幅に変更した。事前に決めていた子供たちや学校職員、スタッフ役割分担も大きく変わることになり、活動がスムーズに流れない場面があった。
 - 自然体験活動が中心となる事業のため、台風などの荒天時のプログラムの見直しや実施の可否の決定にかかわる事項について、学校と当施設での事前打ち合わせを充実させる必要がある。
 - 学校と連携し、2月に予定している「阿蘇の草原キッズになろう！野焼き編」につなげ、草原学習を深められるようにしたい。

3 事業の様子



市原啓吉氏の話



藤田幸代氏の話



エサやり体験



田島今朝信氏の説明



草泊りづくりの様子



草泊り作りの動画作成の様子



完成した草泊り